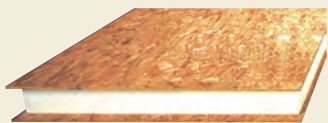


震度7に**60回**耐えられる

# プレミアム・モノコック構法

さまざまな揺れ方の震度7で実大振動実験したところ、「プレミアム・モノコック構法」で建てた家は、激しい振動に60回耐えられたといいます。高い耐震性のポイントは、建物を形成する建築材料や基礎にあります。

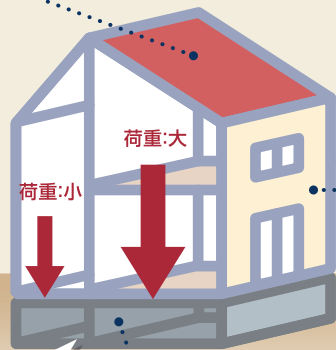
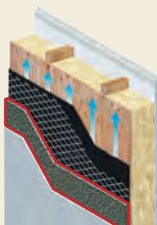
## 2.4トンの重量にも耐えられる 屋根材「ダブルシールドパネル」



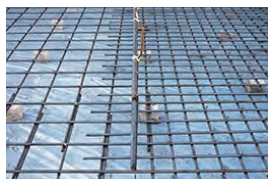
剛性が高く、木材特有の反りがほとんどないそう。耐力に優れているため、梁が複雑な小屋根が必要なく、すっきりとした空間づくりが可能。

## 高強度! ツーバイシックスの外壁材「BSウォール」

耐火性、遮音性、防水性、対衝撃性などを兼ね備えた耐力壁。外壁下地の「スーパーファインクリート(赤粋)」は、さまざまな大きさの骨材と特殊な樹脂を組み合わせることで、殻のように強い外壁に。



↑地上  
↓土の中



鉄筋の密度を従来の2倍に。家具や什器(じゅうき)が多い部屋は、基礎に荷重が多くかかるため、鉄筋量を増やし、バランスよく力を分散させます。

## 鉄筋コンクリートの「ベタ基礎」

配筋後に150mmの分厚いコンクリートで床下全面を覆います。コンクリートと鉄筋を組み合わせることで、基礎の強度が向上。

## オーダーメイドの基礎づくり 構造計算システム「CASC」

1軒ごとに間取りが異なるため、敷地や地盤の条件、建物の荷重のかかり方に合わせて、基礎の構造計算を行っています。



# ハウスメーカーの 地震対策テクノロジー

「マイホームを建てたいけれど、南海トラフや山崎断層が原因で起こる巨大地震によって、家が倒壊しないか不安」と感じている人もいるのでは。大きな揺れにも動揺しない家づくりに定評がある「三井ホーム」独自の技術を調査しました。

**予測できない大地震に対応した「プレミアム・モノコック構法」**  
4つの海洋プレートに囲まれた日本は、地震が多い国。関西圏でも、南海トラフ地震といった巨大地震が懸念されています。「三井ホーム」が採用している「モノコック構法」は、柱や梁(はり)を使う代わりに、2インチ×6インチ断面の角材と木板を接合したパネルで、壁・床・天井の6面を構築する箱形構造。外部からかかる力を分散する仕組みになっているため、地震に対して強い性質を持っています。「いつ激しい揺れが発生してもおかしくない。今、家が倒れる心配なく、快適な生活が送れるように」と、同社は、構造の耐火性をさらに高めた「プレミアム・モノコック構法」を編み出しました。人は、下記をチェック!

た。構成材には、独自開発した強靱(きょうじん)な「ダブルシールドパネル」や外壁材「BSウォール」を、基礎には、建物の重量を分散させる「モノコック」構造の「マットスラブ(ベタ基礎)」を用います。基礎工を含め、家全体で地震エネルギーを吸収します。過去に5回起こった震度7クラスの大震災時には、全棟の住宅被害状況を調査。構造躯体の損傷がほとんどなく、上階へ揺れを伝えにくくする仕組みも明らか。家具の倒壊によって起こる二次災害も少なかったそう。

現在、読者限定で無料設計を実施しています。地震に強く、暮らし継がれる住まいを考えている人は、下記をチェック!

## 熊本地震体験者の声

### 「三井ホームを選んでよかった」

震度7を経験したさん夫婦(熊本県 益城町)

「三井ホーム」の住まいは、夫が気に入って、12年前に建てました。熊本地震が起こったとき、この世の終わりかと思うほどの揺れでしたが、わが家は無事で、夫の選択に間違いはなかったと実感しました。／妻

とても激しい揺れだったのに、瓦一枚落ちず、外壁のひび割れもありませんでした。安否や被害状況の確認もスピーディーで、地震後の対応も含めて、「三井ホーム」で建てたことに満足しています。／夫

